



近く稼働する加山興業豊川工場の「RPF製造プラント」



完工式で謝辞を述べる加山昌弘社長
—豊川市南千両2丁目で

RPF製造プラント完成

廃棄物から燃料づくり 2酸化炭素削減に貢献

加山興業が典 豊川で式

産業廃棄物中間処理業の加山興業(名古屋市長)が、加山昌弘社長は26日、豊川市南千両2丁目の豊川工場で、廃棄物を原料とした固形燃料をつくるRPF製造プラントの完工式を開いた。東名高速

沿いの隣地3300平方メートルを取得し、昨秋着工した工場棟で、鉄骨造り平屋1320平方メートル、6つの生産能力があり、今年3月末までに稼働させ、王子製紙へ全量供給していく。

RPFは化石燃料に代わる循環型環境保全エネルギーで、古紙や廃プラスチックなどを選別・破碎・成形加工して精製する。燃焼炉用の燃料として貯蔵性に優れ、排ガス対策が容易な上、高力

ロリーで安価といった特徴がある。加山興業では、京都議定書に基づく世界的な化石燃料削減をにらみ、温暖化防止に貢献するニュービジネスとしてRPF進出を決めた。事業費約5億5000万

円。この日の完工式には、主要取引先ら約200人が出席。加山社長は、構想期間10年を経て、王子製紙の力強い支援で完成にこぎ着けた。高度なリサイクル事業ではないが、身近な化石燃料の代替という分野で、2酸化炭素削減に貢献していきたいと述べた。

同社は1951年に「加山組」として設立、株式会社化(61年)を機に現在名となり、現業部門は豊川工場に集約。蛍光管の破碎、注射針など医療廃棄物処分なども手掛け、昨年は環境国際基準認証ISO14001も取得した。直近の売上高(昨年8月期)は8億8600万円、経常利益910万円。RPF製造プラント稼働により、今期売上高を10億8000万円、経常利益1000万円と見込む。将来的には、「バイオマス発電」による買電事業にも進出する計画だ。

(藤田彰彦)

交流のきかけづくり

豊橋で三遠地区「人材情報交換

企業同士の出向と受け入れを円滑にしようと、産業雇用安定センターは26日、豊橋商工会議所で「人材情報交換会」を開いた。受入先となる三河・遠州地区の地場企業と、大企業など豊富な人材を抱える送り出し企業の人事担当者が面談、人材交流のきっかけづくりへ情報交換した。

同センターの岩月奈次副所長は、三遠地区は製造業を中心に中小企業が

ブランド戦略

イーグルクラブ東三河支部(松井英治郎支部長)の1月例会が26日、豊橋商工会議所で開かれた。

東海漬物の大羽恭史社長が「二代目社長のニュービジネス」と題して、新商品のキムチをヒットさせた同社のブランド戦略を説明した。

ブランド戦略について大羽社長は、同社の看板商品きゅうりのキューちゃんに続くヒットをめざし、2000(平成12)年に新発売した「熟うま辛キムチ」の例を紹介

東三(英会長)

- 牛肉(外国)。小身
- 日本の食肉処理
- 防衛庁07年度に
- ＜「皇
- 皇室典議員で
- ＜
- 令状なが強調、
- ブッシ
- け入れ、
- パレスの議席を
- メルケ
- 界経済フ
- 米フロ
- バンにと
- ライフ
- 信下
- ライフ
- 日連続
- フジテ
- 収考えて
- ライフ
- 株。40億
- ＜
- 全日空
- 崎、熊本、
- 昨年の
- 高。低燃費
- 中国、C
- 国、日本、
- 世界初
- ブリッド
- 05年買
- 円。4年ぶ
- NY原
- 油製品の

消費税率引き下げの影響